

古川JC

[宮城]

まちづくりへの熱き思い 現役時代の経験をステップに



上からアクアライト台町 千葉社長、リオーネ古川、醸室 佐々木社長、醸室、総会・例会

私たちの住むまち「大崎市」「美里町」「加美町」「涌谷町」「色麻町」は、平成の市町村合併を経て、1市13町から、1市4町に生まれ変わりました。宮城県仙台市の北部に位置するわがLOMのエリアは、東北のへソ（縦横軸の中心）ともいえる場所にあり、古くから交通の要所として栄えてきました。また、『大崎耕土』と呼ばれる豊壤の大地を有し、『ササニシキ』や『ひとめぼれ』といったブランド米のふるさととして知られています。

北西部には、国内にある11種の泉質のうち、9種が集まる温泉地、鳴子。西部には、現存する日本最古の学園所、有備館。北東部には、ラムサール条約登録地に指定されている蕪栗沼を持つマガンの里、田尻。等々、さまざまな資源を持ち、中心となる市街地では、TMO計画に基づいたまちづく

りが進められております。

古川

JCIは、44年目を迎えており、7月には、宮城ブロック会員大会の主管を務め終えました。また、広域合併の進展にとまない、さらなる活動推進のために、名称変更に取り組んでいるところです。

OB会は、フラットな組織として、肩肘張らない活動を目指して、運営しており、卒業した特別会員であれば入退会は自由で、会長等の役職もありません。毎年、卒業したばかりの会員が幹事会として、前年の幹事会と相談しながら運営しており、現役の支えとしての活動や交流の事業を行っております。また、会員は、市長を務めた方々をはじめ、商工会議所や法人会、経営者協会等の各種要職を務められている人材であふれており、各分野で活躍しています。

その中で、まちづくり会社（醸室・(株)アクアライト台町）の役員を務め、中心市街地活性化に取り組み、現役時代に学んだことを実践している多くの会員たちもおります。既存の酒蔵を改修し、飲食店街に生まれ変わらせた『醸室（かむろ）』。再開発と活性化事業を複合させ、シネマコンプレックスを中心としたショッピングセンターを展開する『リオーネ古川』。この二つの事業は、まちの2核として運営されています。

JCIで培ったまちづくりへの思いをさらに燃焼させ、現実に取り組んでいる会員と、現役世代との交流は、明るい豊かな地域づくりの原動力となり、発展していくものと信じております。

日本JCIシニア・クラブ
宮城ブロック担当幹事 村田秀彦